

まなびや訪問

金融教育研究校・
金銭教育研究校
の紹介



4年生による「花苗販売」



1・2年生の「にしきのやおやさんだいさくせん」



5年生による「からすみ作り」



錦小学校の校舎と満開の桜



三重県大紀町立錦小学校

錦小学校は、三重県の中南部に位置する大紀町にあります。隣町との境には、かつて、「伊勢の国」と「紀伊の国」の国境だった世界遺産・熊野古道の「ツヅアツ峠」があり、多くの人々がこの地を訪れます。

本校は、2018年度から三重県金融広報委員会の支援を受け、金融教育の視点を取り入れた地域学習に取り組んでいます。金融教育の意義である「将来を見通しながら、より豊かな生き方を実現するため、主体的に考え、工夫し、努力する態度」や「社会に支えられている自分と社会に働きかける自分とを自覚して、社会に感謝し、貢献する態度」を身に付けることは、本校の研修主題である「自己伸びようとする子どもの育成」につながるものですね。

2018年度の金融教育の実践では、各学年ごとにテーマを設けて、地域とつながりながら学習を進めました。例えば、1・2年生は、「にしきのやあ

やさんだいさくせん」を行いました。野菜栽培を行い、収穫した野菜の価値を相談し、販売を行いました。サルの畠荒りしながらの苦難を乗り越え、やつとのことで実施した野菜販売は、地域の方々から、「また野菜作ってね」「などの言葉に、達成感と満足感を得ることができました。また、5年生は、錦の春の特産品である「ぶつ」の卵を「からすみ」にすることで、「新たな価値を見いだすことでの地域の活性化」を学習しました。

地域の方々からは、「地域の人・もの・こと」を大切にしながら、教育を進めていくことに感心した、「経済活動とお金の関連性を知ることは、大変意義がある」などの声をいただきました。今後とも、金融教育の意義を取り入れた学校教育を開拓することと、児童一人ひとりに、たくましく生き抜いていける力を培つていけるよう取り組んでいきたいと感じます。